

# インターネットイニシアティブ】（[3774]）企業分析レポート | 作成日：2026年01月

## 【直近5年の業績推移】

決算期	売上高 (百万円)	営業益 (百万円)	経常益 (百万円)	EPS (円)	配当金 (円)	寸評
2021.03	213,002	14,248	14,035	53.8	-	大幅増益
2022.03	226,335	23,547	24,162	86.8	-	最高益
2023.03	252,708	27,221	27,309	104.3	-	増益継続
2024.03	276,080	29,029	28,934	111.8	-	堅調成長
2025.03	316,831	30,104	29,184	112.7	-	売上拡大

## 【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF (百万円)	投資CF (百万円)	財務CF (百万円)	現金残高 (百万円)	自己資本比率 (%)
2023.03	38,529	-18,386	-25,731	42,472	48.0
2024.03	40,780	-17,927	-20,797	45,474	45.9
2025.03	28,528	-21,749	-19,667	32,534	45.0

## 【財務コメント】

営業キャッシュフローは安定的にプラスを確保しているが、直近年度は投資負担の増加によりフリーCFが縮小した。自己資本比率は45%前後を維持しており、積極投資と財務健全性のバランスを取りながら成長を続けている。

## 【会社概要】

インターネットイニシアティブは、日本初の商用インターネット接続事業者として設立された独立系IT企業である。ネットワーク接続、クラウド、セキュリティ、システム運用を一体で提供し、法人向けITインフラ分野で高い存在感を持つ。

## 【歴史】

1992年に設立され、日本のインターネット黎明期からネットワーク事業を展開してきた。通信インフラを基盤にクラウドやセキュリティへと領域を拡大し、ストック型収益モデルを構築しながら持続的な成長を遂げている。

## 【立ち位置】

国内ITインフラ・ネットワーク分野において独自のポジションを確立している。通信とクラウドを融合したサービス提供力が強みで、大手通信キャリアとは異なる中立的立場から企業のDX基盤を支えている。

## 【見解】

中長期的には、企業のクラウド移行やセキュリティ投資の拡大を背景に、同社のネットワーク・クラウド一体型サービスは安定した需要が見込まれる。自社回線網と運用ノウハウを活かしたストック型ビジネスは、収益の継続性という点で強みがある。一方で、設備投資負担や人材確保コストの増加により、短期的にはフリーCFが変動しやすい構造もあり、投資回収の進捗と収益性の改善が中長期評価の分かれ目となる。

【株価・市場情報】（2026年01月16日時点）

株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
2,642.0	20.3	3.16	1.48	26.0	24,846

【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億)	特徴
KDDI	2,648	13.4	2.0	110,000	総合通信会社。携帯通信を軸にライフデザイン事業を開拓。
ソフトバンク	216.0	19.4	4.2	100,000	通信インフラを基盤にICTソリューションを提供。
NTT	157.1	12.3	1.4	140,000	国内通信最大手。固定・携帯・光回線で高シェア。
S B グループ	4,010	-	1.6	220,000	投資持株会社。通信・半導体設計事業を傘下に持つ。
ビプロジー	5,376	17.9	2.9	5,411	クラウドに注力するSI。金融・流通分野に強み。

【投資成功シナリオ】

クラウド・セキュリティ需要の拡大を背景に、法人向けストック型サービスの契約が順調に積み上がる。設備投資の回収が進み、営業CFが安定的に拡大。ネットワーク運用力と中立的立場が評価され、インフラ系成長株として持続的な評価を得る。

【投資失敗シナリオ】

設備投資負担が想定以上に重く、フリーCFの回復が遅れる。価格競争の激化や人材コスト上昇により利益率が低下し、成長期待が後退。高い信用倍率も重なり、株価の変動性が高まる。

【メモ】

注目点は設備投資と営業CFのバランス、クラウド・セキュリティの受注動向。ストック収益比率の推移と、投資回収フェーズへの移行時期を継続的に確認したい。